二〇一七年六月二三日

あめんぼの脚四本にしか見えず　せいじ
八つ橋の陰から出でず蝌蚪群るる　たか子
ビル街の夕立避くる軒の無く　ともえ
往年のモダンガールや黒日傘　治男
西日射す校舎吹奏楽漏るる　なおこ

二〇一七年六月二二日

山襞にのこる雲あり梅雨晴間　はく子
うち騒ぐ池塘の真菰雨もよひ　なつき

二〇一七年六月二一日

飛び石に遊ぶがごとく夏の蝶　こすもす
きらきらと水陽炎や沢涼し　うつぎ

二〇一七年六月二〇日

白南風に胸を反らせて風見鶏　菜々
地図になき路地に迷ひぬ街薄暑　なつき
ハイカーに赤き目印夏木立　たか子
一の谷奈落を埋む茂かな　なつき
渓水の高鳴るところ蝶遊ぶ　菜々

二〇一七年六月一九日

高舞ひて星に紛るる蛍あり　うつぎ
空襲を知りたる樟に蔦青し　なつき
一と缶を夫と分け合ひビール干す　よし女
陋巷に巣立つ燕の声高し　智恵子
陽の落ちてより収穫す夏野菜　明日香
朝顔の咲いたよと吾子起こしけり　こすもす
葬送を終へて片陰戻りけり　はく子

二〇一七年六月一八日

舞妓らのうなじ撫ぜゆく若葉風　菜々
海霧深きより寄港せる異国船　宏虎
バス走り走り走れど虹前に　ともえ
回覧のまたも訃報や梅雨寒し　満天
夏帽子散らばり遺跡掘り進む　やよい

二〇一七年六月一七日

紫陽花の毬分け入りて検針す　満天
必着と朱書父の日プレゼント　せいじ
哲学の道は紫紺の濃紫陽花　ぽんこ

毎日句会みのる選・二〇一七年六月二五日